

## コースプランナーレポート

OMM JAPAN 2019 にご参加ありがとうございます。今年も OMM JAPAN が皆さんの挑戦心をくすぐるようなイベントになったのであれば嬉しく思います。また、多くのスタッフ・ボランティアの皆さんにフォローいただいたことにあらためて感謝いたします。

### 今回の変更点

#### コース定義の変更：

Straight のコース名称と設定タイムを変更した。

これまで A、B、C コースとしていたものをイギリスの OMM に合わせて E、A、B とした。想定されるウイニングタイムもこれまでの優勝チームの予測タイムではなく、「前年上位 5 チームの平均所要時間」に基づいて計画し、これを平均完走タイムとして事前に公表することにした。

#### コース難易度の見直し：

前項に合わせてコース難易度もイギリスのコース設定マニュアルに合わせて見直した。すなわち表 1、2 の通りである。これは参加者がコースを選択する上でも重要な基準となるので、この場に限らず今後広く公開されることを望む。

表 1. コントロール位置のレベル

レベル	コントロール位置	タイムロスの度合い
Lv.3	線状特徴物上。	線状特徴物の上でないコントロールの場合はそのコントロール近くに、地図上に表示されたわかりやすい特徴物がある。
Lv. 4	複雑な等高線を読み解くマップリーディング力を必要としない特徴物。	コントロール近くに地図上に表示された明瞭な特徴物がある。間違えても大きなタイムロスにはならない。
Lv.5	特に慎重なマップリーディングを要する特徴物。ただしフラッグは目視できる場所に設置し、極端に孤立した場所に設置しない。(運試しのコントロールは不可)	コントロールはわかりやすい目印から遠く離れている。間違えると大きなタイムロスになる。

表2. 各コースのコントロールレベル

コース名	コントロールレベル
Straight E	Lv.5 を最低 2～最大 4 か所、残りは Lv.4
Straight A	LV.5 を最低 1～最大 2 か所設定、残りは LV.3/LV.4 を半数ずつ
Straight B	LV.3 のみで、LV.5 は設定しない
コンバインド	LV.3 のみで、LV.5 は設定しない (OMM JAPAN では未設定)
Score Long	主に LV.4 のみで、LV.5 は最大 4 か所まで
Score Medium	LV.3 と LV.4 を半数ずつ
Score Short	主に Lv.3 のみで Lv.5 は設定しない (OMM JAPAN では未設定)

#### コース設定者の追加：

過去5回のコースはすべて筆者が設定してきたが、今回から谷川友太氏に加わってもらった。谷川氏はオリエンテーリングのアジアチャンピオン経験者であり、2回目の OMM JAPAN のときから地図調査やコース設置・撤収や試走に加わってきた。昨年イベント時、筆者が不在の時間帯にはコース管理のすべても任せており、彼がいなければこのクオリティでの地図・コース提供はできない頼りがいのある相棒である。彼にコース設定にも加わってもらうことでコース設定に新たな変化をもたらすことも期待した。

#### 地図調製者の追加：

コース設定と同様に過去5回の地図はデータ作成から印刷まですべて筆者が仕上げてきたが、今回は坂野山遊地図企画の坂野翔哉氏に一部を委託した。坂野氏はオリエンテーリング大会向けの地図作成や調製・印刷に携わっており、専門ソフトウェアの扱いから印刷時の色調整まで細かく行うことができる専門家で一切の業務を安心して任せることができる。今回は耐水加工としてポリ袋への封入までお願いした。おかげでプランナーチームはコース設置準備に全力を注ぐことができた。

#### コース設定の経緯

今回の車山高原、霧ヶ峰エリアが候補に挙がったのは2018年夏頃であった。山頂付近は筆者自身も何度か訪れたことがあり特徴はよく分かっていた。国定公園に指定されているエリアは登山道以外自由に立ち入ることができず OMM のコースを組むのは難しい。しかし現地の眺望の良さは抜群で、ここが候補になった理由は容易に理解できた。他に目ぼしい候補地が見つからないこともあり、周辺の山林に立ち入り可能かどうかを調べるため昨年10月に谷川氏に下見に行ってもらった。

彼の報告では高原部分より標高の低い山林部分は昨年の奥三河同様に通行可能で、視認性の高いエリアが多く、よいコースを提供できる可能性がある報告を受けた。その報告を受

け、傾斜具合や道の多寡などから利用したいエリアを決定、渉外担当の我部氏に交渉にあたってもらった。

春頃までには山林部分は概ね許可の取れる目途が立ったこと、国定公園内は立ち入りが厳しく制限されるとの報告を受け、コース回しを決めつつ調査の準備を進めた。5月中旬に宮内佐季子氏に先遣隊として山林部分の林道や登山道が地図通りにあるか否かの基礎調査を行ってもらった。

5月下旬に実行委員長の小峯氏や競技責任者の田島氏らとともに現地下見を行いスタートやフィニッシュ、キャンプ地の確認を行った。立地上、序盤と終盤はナビゲーション要素の薄いコースとなってしまうことを懸念材料として挙げ、会場から離れた場所をスタート地点にする案なども提案したが、運営上の都合と眺望のよい場所を走らせたいという要望を受け今回のコース回しの大枠が決定した。

続けて小泉、谷川のほか近藤康満氏を加えた調査本隊で全域をくまなく見て回り、地図の修正やコントロール位置候補の決定を行った。6月以降は作図と本格的なコース設定も進めた。7月に白馬で開催した **OMM LITE/BIKE** の場で谷川氏とコースの刷り合わせを行い、8月にイギリスへコース案を提出した。イベントディレクターのシュワート氏から「地表の様子が分からないので細かな検証は難しいが、あなたたちの仕事を信頼している」との回答をもらった。

8月に国有林で間伐事業があり、該当エリアへの立ち入りが難しいとの報告を受けた。2日目の競技エリア北部に設定した立入禁止エリアがそれに当たる。多くのコースでメインレグを組んでいるエリアであった。この時点からの大幅なエリア変更は難しく、1日目と同じエリアを利用してコースを組み直すことも検討したが、谷川氏が苦心の末コースを組み直してくれ、2日間ではほぼ違うエリアを使い分けるコースレイアウトを実現することができた。

8月下旬にマーシャルチームや小峯氏らとともに1回目の試走を行った。毎年のことだが試走コースは本番より長く厳しく、まだ暑くてヤブも残る時期のため本場以上に過酷である。毎回苦しみながらも貴重なコメントを寄せてくれる試走チームには感謝しかない。試走の結果を受け、コースを調整し、距離や難易度の調整を行った。

9月以降、追加の調査や部分的な試走を行い、10月上旬までにコースと地図を仕上げた。10月中旬以降にコースごとのレイアウトファイルを坂野氏に依頼し、最終チェックの末印刷、耐水加工を進めた。

イベント前の木曜日に現地入りしてコントロール設置を行い、参加者が最も重要なルールを守ってくださったこともあり、月曜の午前中にはすべてのコントロールを回収できた。調査に引き続き設置、撤収にも加わってくれた近藤氏にあらためて感謝する。

## 今回の検証

### コース設定について：

まず今回最も大きな変更点であったコース設定に見直しについて振り返りたい。結果は表3、4の通りである。

表3. Straight各コースの結果

日	コース	制限時間	平均完走タイム (上位5平均)	コース距離	想定 登距離	想定 ルート距離	距離+登 (L)	Top5平均 (5)	Top5 pace =5/L	完走率	完走	失格
Day1	E	10h	5-5.5h	21.7km	1900m	27km	46	<b>5:48:17</b>	0:07:34	<b>74%</b>	26	9
	A	9h	4-4.5h	19.0km	1550m	23km	39	<b>5:52:28</b>	0:09:09	<b>65%</b>	52	28
	B	7h	3.5-4h	14.2km	860m	18.5km	27	<b>3:53:29</b>	0:08:39	<b>89%</b>	75	9
Day2	E	10h	4.5-5h	18.7km	1680m	24km	41	<b>4:37:18</b>	0:06:46	<b>89%</b>	31	4
	A	9h	3.5-4h	15.2km	1420m	20km	34	<b>4:44:07</b>	0:08:21	<b>82%</b>	64	14
	B	7h	3-3.5h	10.9km	960m	13.5km	23	<b>3:32:33</b>	0:09:14	<b>96%</b>	81	3

表4. Score各コースの結果

日	コース	制限時間	満点	Top5平均	Top5 得点率	平均点	中央値
Day1	L	7h+1	600	540	<b>90%</b>	218	230
	M	6h+0.5	600	429	<b>72%</b>	218	200
Day2	L	6h+1	600	441	<b>74%</b>	247	250
	M	5h+0.5	600	353	<b>59%</b>	195	210

Straight に関しては E と B についてはほぼ想定範囲に収めることができた。A に関しては長めの設定となってしまう1日目終了時点で2日目の短縮も考えたが、天候がよいことが事実だったことと完走率は想定範囲だったためそのまま実施した。E と B に関しては毎回参加者レベルが一定の水準を保つため予測しやすいが中間の A に関しては参加者のレベルが流動的で想定範囲に収めるのは難しい面がある。E と A に関しては試走時からコースを短縮したこともあり、よりダイナミックなルートチョイスを問う区間がなくなってしまったことは残念であった。

完走率は A コースの1日目を除いて想定よりも+10%程度高い水準となった。これはコース設定を少し短縮したこともあるだろうし、序盤や終盤にナビゲーション要素の少ないエリアが多かったことも大きく影響しているだろう。

Score に関しては Long、Medium とも1日目の上位5チームの得点率は驚異的であった。想定はいずれも-10%程度を見込んでいた。1日目に関しては当初は序盤の高原部分を Straight 同様早めに抜けてもらい、山林部分に早めに入ってもらおう予定であったが、エントリー数が多かったことからチームを散らすために高原部分にもコントロールを設置し、その分山林部分のタフな位置にあったコントロールを減らしたことも大きく影響しているだろう。Score Long に関しては参加人数が多くなることから、コースの面白さのみを追求しすぎず、環境面も考慮した現実的なコース設定を設定当初から心がける必要がある。

細かな結果解析や皆さんの反響を聞く限り、ナビゲーション面では簡単すぎず、難しすぎ

ない OMM JAPAN のコースとしては適切なものを提供できたと感じている。私のまわりにはオリエンテーリング関係者が多いので、その人たちにとっては簡単なコースだと感じる部分は多かったであろう。しかし彼らが難しく感じるコースにすればオリエンテーリング特有のスキルが必要となってしまう。OMM はオリエンテーリングではない。今後、誰がコース設定を行うことになったとしても、山行で必要なナビゲーションスキルでほぼ対応できるようなコースを提供することが山の総合力を試す場として OMM が目指す方向であると理解しておいてもらいたい。

一方、体力面に関しては特に **Score** においてやや短い（狭い）コースであったかもしれない。もう少し広いエリアでコースを提供できることが理想だが、日本の事情を考えると今回以上のエリアを利用して毎回イベントを開催することは困難だ（例え拡大できたとしても多くの場合は道を走る区間が増えるだろう）。そう考えると単純にエリアを拡大し、コースの距離を増やせばよいという問題ではない。

OMM が山を愛する参加者の日々の努力を試す場であることを考慮すると、実際の山行時にも遭遇するように、一定の基準を満たさない道は描き込まない地図を提供してそれらに対応しながら目的地に到達する技術を問うコースで難易度調整を図ることは一つの解決策になるかもしれない。

#### 地図表記について：

今回も立入禁止エリアに立ち入った参加者が散見されたとの報告があった。故意に立ち入っているとすれば言語道断だが、半分くらいは立入禁止エリアであると認識していないのではないかという印象をもつ。700 ちかいチームに地図の全てを理解してもらうことは難しいが、より直感的に立入禁止であることが分かるような地図表記に変更することも検討すべきだろう。現在の OMM JAPAN のマップはオリエンテーリングマップを基準に色分けを決定しているが、OMM はオリエンテーリングではないという先の言葉の通り、地図に関しても今後は独自の基準を持つべき時期に来ていると感じる。

どんな記号にするにしても地図記号を理解してもらわないとその効果はない。OMM はイベントセンターにて事前に見本マップを見ることができる。地図を理解する準備はどのレベルの参加者にもお願いしたい。

#### 立地について：

これまでに挙げた、あるいは他のレポートで触れられている競技上の問題のいくつかはイベントセンター・キャンプ地とスタート地点・フィニッシュ地点の位置関係を見直せば防ぐこともできる。

スタートフラッグが見えていることは競技の公平性という点では確かに問題かもしれないが、OMM のコースにおいては大きな問題ではないかもしれない。OMM JAPAN を初めて開催することとなった 2014 年、ひとまず我々の母体であるオリエンテーリングの競技規

則を基にイベント運営を行いこれまで何とかイベントを回してこることができた。しかしここまで何度か触れている通り、OMMはオリエンテーリングではない。公平性や競技性よりも重視されるべき要素も多く、それらに柔軟に対応するためにはオリエンテーリングの競技規則から離れたイベント運営やコース設定を行い、OMM JAPAN独自のルールを明確にしていくべきであろう。いずれにしても手探りの中で1回目のOMM JAPANから競技ディレクターとして関わりその立ち上げや現在のクオリティにまで仕上げてきた田島利佳氏の功績に深く感謝する。

コースプランナー

小泉 成行